



四国防災八十八話

第七十三話 土下座の説得

監修・著作：愛媛大学防災情報研究センター

作画：岡野 小夏

平成16年9月末、台風21号は、各地に大きな被害をもたらしながら、香川県観音寺市まで進んできました。

当時、私は消防団長を務めており、隊員から入ってくる情報を元に、対応に追われていました。

大雨のせいで、土石流が発生する可能性が出てきました。危険のある地域に住んでいる住民に、避難勧告が発令されました。



“A地区避難完了しました！”

“B地区、後3世帯です！”

避難の状況報告が、本部まで続々と入ってきました。

しかし、

“F地区ですが、1人どうしても
避難してくれないんです！
このままでは、危険です。”

と、最後まで、避難に応じてくれない方がいる
という連絡が入りました。



対応に当たった隊員によると、

“わしは、この家に何十年も住んどるんじゃ。
この辺りの事は、わしが一番よう知っとる。
今まで、そんな土砂崩れなんかに
なったことは、一度も無いわい。
おまえ等、若造に何がわかる。
わしは、ここで家を守るんじゃ！！
さあ、帰った、帰った！”

と言って、いくら土石流の危険性を説明しても、
うんと言ってくれないとのことでした。



私が、直接お伺いして、
説得に当たることにしました。

“この辺りにお詳しいことも、
この家を守りたい気持ちも、本当にわかります。
しかし、今回の台風では、
今までにないほど、大雨が降っているんです。
山が崩れたら、
一瞬で土砂に吞まれてしまうかもしれないんです。
逃げる暇なんて無いんです。
どうか、避難してください。
お願いします！！”



しかし、家主は、
“ええい、黙れ。黙れ。
わしが、構わんと言っとるんじゃ。
ほっといてくれ！”
と、避難に応じてくれません。

押し問答が、10分～20分ほど続きました。

こうしている間にも、
いつ山が崩れるかわからないのです。



がぼっ！！

私は、ついに、土下座をしてお願いをしました。

“長い間、住んでこられた家が
大事なお気持ちはわかります。
自分で守りたいというのもわかります。
しかし、私には、
この地域に住む皆さんの命を守る
大事な使命があるのです。
どうか、避難所へ行ってもらえませんか？
この通りです。
お願いします！”



“むむむ・・・
おまえさんには、負けたわい。
仕方ない、良かろう。
おまえさんに免じて、避難しよう”

ついに、家主も折れました。

避難所まで行ってくれることになったのです。

私は、心底ホッとしました。

早速、身支度を調べて、避難所まで送り届けました。



ごおおおおおおおっ————！！

ついに、山の斜面が崩れ始めました。

土砂は、雨水と混じって、土石流となり、
ふもとの民家や農地を襲います。

“あぁ、わしの家が……”

最後まで、踏ん張っていたおじいさんの家も、
土砂に吞まれてしまいました。



一夜が明けて、台風は過ぎました。

土石流のせいで、街は、甚大な被害を受けました。

**しかし、避難をしてくれたお陰で、
住民達は全員無事でした。**

**今まで、大した被害が無かったからと言って、
この先も被害が小さいままで済むとは、
限らないのです。**

**経験に頼って、災害を過小評価してしまうことは
とても危険な事です。**

避難勧告が出たら、その指示に従うこと。

これが、被害を最小限に抑えるための基本です。